

平成29年度福島県学力調査における郡山市の結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 全県的な規模で児童生徒の学習状況を調査し、様々な視点から実態を分析することにより、学習指導上の課題及び学習指導の改善点を明らかにする。
- ② 各学校の学習指導上等の課題の把握及びその改善に向けた取組に資する。

(2) 実施日程

平成29年11月6日(月)～10日(金)

(3) 調査内容

- ① 市立小学校：国語、算数、理科、意識調査、指導状況調査
- ② 市立中学校：国語、数学、理科、英語、意識調査、指導状況調査

(4) 調査対象

- ① 小学校：57校(5年生2,737名)
- ② 中学校：28校(2年生3,108名)

2 調査結果と改善策

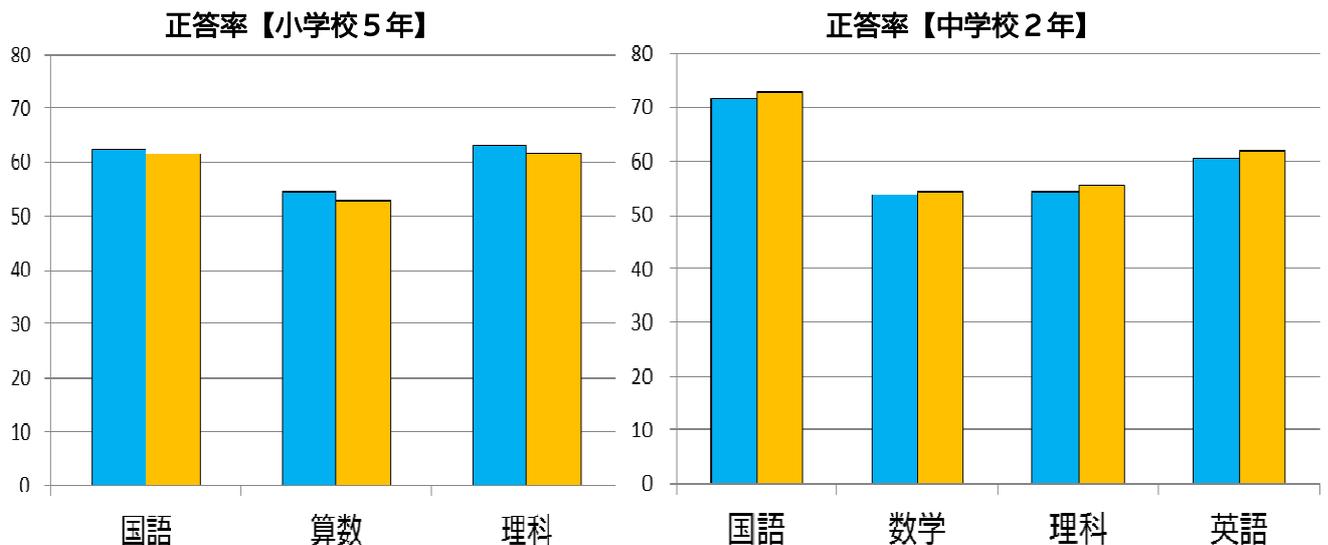
学校においては、知識・技能や思考力・判断力・表現力などの応用力の育成のほか、豊かな人間性やたくましい体力・運動能力の育成にも取り組んでおり、成果をあげているところですが、本調査の結果は、特定の教科の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものです。上記調査目的をふまえ、これからも保護者や市民の皆様と連携し、本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

(1) 結果概要

小学校においては、国語で県の正答率と同程度であり、算数・理科で県の正答率をやや下回っています。

中学校においては、国語・理科・英語で県の正答率をやや上回っており、数学で県の正答率と同程度です。

(2) 各教科における正答率



	国語	算数	理科
福島県	62.4%	54.6%	63.0%
郡山市	61.5%	53.0%	61.7%

	国語	数学	理科	英語
福島県	71.7%	53.8%	54.4%	60.5%
郡山市	72.9%	54.5%	55.5%	61.8%

(3) 各教科における結果と課題、改善策

【小学校5年】

	結果	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の領域では、段落構成を明確にして指定された長さで文章を書く力が身に付いています。 ○「読むこと」の領域では、物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る力が育っています。読書活動や新聞を活用した言語活動を積み重ねてきた成果であると考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の領域では、与えられた情報を読み取ったり、組み合わせたりして、適切な言葉を使って文を書くことに課題があります。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、敬語の使い方や漢字辞典の使い方について課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を正しく読み取り、書き方や話し合いの「型」を示し、目的に応じて自分の考えを書いたり話したりする言語活動を設定します。 ○敬語について、用語の意味や使い方を理解させ、実生活の中で意図的に活用する機会を設けます。また、漢字を積極的に調べる機会を設け、言葉への関心を高めます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」の領域では、整数の知識の活用を問う設問、数直線上に示された分数を読み取る設問で正答率が70%を超え、概ね定着していると考えられます。 ○「量と測定」の領域では、複合図形の体積を求める設問で正答率が71.1%であり、概ね定着が図られていると考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」の領域では、小数の除法の文章問題を表した数直線を理解し、基準量と比較量、割合にあたる場所に適切な数を当てはめることに課題があります。 ○「数量関係」の領域では、2つのグラフを読み取り、それを根拠に、グラフの様子や特徴を文章で表現することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1より大きい小数や小さい小数でかけたりわったりしたときの数の関係の理解を深めるとともに、数直線と計算方法との相互関係の理解もさらに深めます。 ○2つのグラフの増減が表す具体的な意味や関係を的確に捉えて説明したりする言語活動を取り入れます。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命・地球」の領域では、魚のたんじょう、月と星、電気のはたらき、天気の変化など、7問で正答率が80%以上となっています。 ○選択形式の設問での正答率は高い傾向にありますが、短答式・記述式の設問で正答率が低い傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「物質・エネルギー」の領域では、金属のあたたまり方について、適切に表現することに課題が見られます。 ○「科学的な思考・表現」で、県の正答率を1.7P下回っており、目に見えづらい現象について適切に表現することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験を重視し、問題解決の手順や結果の処理の方法等の理科の「学び方」を意識した授業を実践していきます。 ○根拠を基に話し合い、表現する等の言語活動をさらに充実させ、比較・検討しながら、科学的な見方・考え方を高めます。

【中学校2年】

	結果	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」の領域では、集めた材料を根拠として、論理的な構成や展開を考えて話す力が育っています。 ○「読むこと」の領域では、要旨を捉える力が身に付いています。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す力や故事成語の意味を理解する力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の領域では、資料を正しく読み取り、自ら課題を決め、見通しをもち、それに応じた情報の収集方法を考え、文章でまとめることに課題があります。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、文脈に即して文の成分や照応、文の構成などについて考えることや比喩を用いた表現についての理解に課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて身の回りの様々な事象から課題を決め、情報をどのように収集すればよいのか検討しながら、課題解決を図る言語活動を計画的、継続的に行います。 ○主語述語の照応や修飾語と被修飾語の照応、比喩や反復などの表現の技法を理解させ、各領域の中で適宜取り上げて、文の推敲をしたり、比喩表現を用いて文を書いたりする活動を取り入れます。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と式」の領域では、簡単な負の数の減法で正答率が91.1%、簡単な連立方程式を解く設問で、正答率が78.3%であり、計算の知識や技能は概ね定着しています。 ○「図形」の領域では、図形を回転移動で、もとの図形と重なる図形を選ぶ設問で、正答率が70.6%であり、回転前後の向きや重なりについて概ね定着しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の領域では、特に空間図形の見取図、展開図の関係を理解したり、錐体と柱体、さらには円錐と円柱と球の関係を理解したりすることに課題があります。 ○資料の活用では、ヒストグラムや度数分布表、代表値の意味などを理解し、様々な場合に対して正しく活用することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間図形において、具体物を用いた操作活動や、デジタル教材を用いた観察などで、実物と見取図、展開図を関連付けたり、自ら図をかいたりする活動を設定します。 ○身の回りの様々な資料に触れ、表やグラフの特徴を話し合ったり、説明したりすることで、知識や技能の定着を図り、資料から様々なことを判断できるようにします。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命」の領域では、感覚器官の働きや花のつくりなどで高い正答率となっており、概ね定着が図られています。 ○「粒子」の領域では、県の正答率を1.7P上回っており、特に水溶液や気体の性質について答える設問で、県平均を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「力と圧力」の設問においては、水圧や浮力の理解、グラフの読み取り等について課題が見られます。 ○記述式の設問や思考力を問う設問での無回答率が高く、順序立てて考え適切に表現することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決のために目的意識をもって実験に取り組み、得られた結果の分析や解釈する活動を通して、科学的に探究する能力を養う授業を展開します。 ○互いの考えを比較・検討し、より深く、広く考えられるよう言語活動の充実を図ります。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○35問中29問で、県の正答率を上回っており、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の知識、理解が概ね定着しているといえます。 ○「聞くこと」の設問10問のうち、7問で正答率が70%を上回っており、まとまりのある英文を聞き取る力があるといえます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の領域では、資料とその内容・条件に合う事柄を、英文を読んで適切に判断することに課題があります。 ○「書くこと」の領域において、場面に応じて書く英作文の正答率が低く、疑問詞、主語、動詞の語順を正しく理解する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長文の読み取りについては、まとまった英文を読む機会を設定し、英文と資料の内容を比較しながら読み進める活動を設定します。 ○英作文では、主語と動詞の語順を正しく把握し、その上で疑問詞や修飾語句の適切な位置を理解し適用するなど、英文の構造を捉え、活用する力を育てます。